

日蓮大聖人御書全集

ふもろごかいじ

不妄語戒事

新版
2157

ふもうごかいじ
不妄語戒事

ぼんぷ

とき

ふもうごかい

たも

眼

抜

凡夫にておわせし時、不妄語戒を持って、まなこをぬか

皮

剥

肉

破

ち

吸

ほね 枯

れ、かわをはがれ、ししむらをやぶられ、血をすわれ、骨か

こ ころ

妻

奪

むりようこう

れ、子を殺され、めをうばわれなんどせしかども、無量劫が

あいだ いちど

虚

ごと

く

ほとけ

成

たま

間、一度もそら事なくして、その功によつて仏となり給い

そうろう

むいちふじようぶつ

もう

なんみようほうれんげきよう

て候が、「無一不成仏」と申して、南無妙法蓮華経とただ

いっぺんもう

ひと

ひとり

ほとけ

無

説

たま

一反申せる人、一人として仏にならざるはなしととかせ給

そうろう

いて候。

しやかいちぶつ

おお

うたが

じっぼう

釈迦一仏の仰せなりとも疑うべきにあらざるに、十方の

ほとけ

みまえ

偏 頗

虚 ごと

たも

仏の御前にて、なにのへんばにかそら事をばせさせ給うべ

うえ

しゃかぶつ

じつぼう

ほとけ

どうじ

した

だいぼんてん

き。その上、釈迦仏と十方の仏、同時に舌を大梵天に。